

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月8日

協議会名:岡谷市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
アルピコタクシー(株)	市街地循環東ルート線 やまびこ公園線	バスの利用者数については、令和2年度の大幅な減少以降、人口減少や高齢者の運転免許保有率の上昇により、横ばいの状態が続いている。今後も以前の水準まで戻るのには難しいと思われるが、高齢化社会により公共交通の需要は依然として高い。 更なる実績の向上を目指し、以下の利用促進策を実施した。 ①園児が塗ったバスの塗り絵を車内に展示する「シルキーバスこども美術館」事業(令和3年度～)にて、令和5年度から年長児を対象にしたバスの乗り方教室及び体験乗車を新たに実施。令和6年度は市高齢者クラブ連合会より開催の要望を受け、乗り方教室を実施。 ②地域公共交通の最適化を狙いとした岡谷市地域公共交通計画を策定。(令和5年度) ③シルキーバス運行情報のGTFSデータ作成、Googleマップへの掲載(令和5年度～) ④エコドライブ推進事業所に登録した事業所に対して、無料回数乗車券を配布する「岡谷市エコドライブ推進事業所支援事業」を実施(令和5年度～)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	①シルキーバス路線の1日平均利用者数については、目標の290人以上/日に対して292人で、目標達成率は100.7%。 ＜理由＞ 様々な利用促進策の継続的な実施や、定期的な車両の更新により、目標値を達成できた。 ②シルキーバス路線の収支状況については、目標の19.0%以上に対して、16.1%であった。 ＜理由＞ 運転手の人件費上昇、バス会社管理費(本社経費や支社経費などの一般管理費)の増加、物価高騰による修繕費の増嵩、急な車両修繕の発生等の理由により、運行経費が増加した。	・令和5年度に策定した岡谷市地域公共交通計画については、令和6～10年度が計画期間となっているため、目標達成に向け計画内の様々な施策を実施する。 ・バス利用者の声を反映した時刻改正を令和6年10月1日より実施した。バス発着点の変更やデマンド区間の新設等の取り組みを行ったほか、運行事業者の声も反映し、運転手の休憩時間を十分確保できるよう全面的に改正した。引き続き、利用者の声を反映できるよう努めていく。利用者への周知活動として、この時刻改正を契機として、時刻表を改訂したほか、ホームページや広報等を活用した周知に努めたが、引き続き、利用促進により一層力を入れる。 ・収支状況については、車両の老朽化による維持修繕費や事業者の一般管理費の増加、人件費の高騰等により、経費が上昇傾向にある。引き続き運賃の見直しも検討しながら、運賃収入以外の収入確保にも努め、利便性の高い運行を確保する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月8日

協議会名：	岡谷市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	岡谷市は長野県のほぼ中央に位置し、面積は85.10km²、人口は45,418人(R6.10.1現在)である。当市の地域公共交通の状況は、JR中央東線と、諏訪地方唯一の民間路線バス(岡谷・茅野線)や諏訪湖周スワンバスといった地域間幹線の路線バスを広域的な移動手段としており、これらを有効利用できるよう、コミュニティバス(シルキーバス)が市内の公共交通網を形成している。 近年の人口減少や高齢者の運転免許保有率増加による利用客の減少、物価高騰による経費の増加等により、行政負担は増大している。岡谷市地域公共交通計画では、「市民の移動を支え みんなが快適に利用できる 持続可能な地域公共交通の実現」を将来像に掲げており、地域間幹線交通とフィーダー系統を組み合わせることで生活に不可欠な交通網の確保と利便性の維持を図っていく。